

# TOSHIBA

## 東芝デジタルタイマ取扱説明書

### AMT-2100 (EIA-1Uサイズ)

このたびは東芝デジタルタイマAMT-2100をお買いあげいただきましてまことにありがとうございました。お求めのデジタルタイマを正しく使っていただくために、この取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになったあとは必ず保存してください。

#### 目 次

項 目	ページ
1 本機の特徴	2
2 特にご注意を	2
3 各部のなまえと働き (前面)	3
4 " (後面)	4
5 接続のしかた	5
6 使いかたの簡単な説明	6 ~ 8
7 プログラムの組みかた	9 ~ 14
8 書き込みのしかたと操作のしかた	15
① 出力接点の設定のしかた	16
② 時間割の入力のしかた	17 ~ 19
③ 修正モードによるプログラムのチェック、修正、消去	20
④ 時刻設定のしかた	21
⑤ 動作チェック	22
⑥ キー入力禁止と運用について	23
曜日選択、スケジュール選択スイッチの使いかた	23
⑦ 手動動作のしかた	24
⑧ 停電補償について	24
⑨ エラー表示について	25
⑩ キー入力禁止を解除するには	25
9 自動修正回路の使いかた	26 ~ 27
10 自動時刻修正のしかた	28
11 ロッカー形アンプ、デスク形アンプへの組み込みかた	28
12 修理サービス	28
13 仕 様	29
14 次のような場合には	30(裏表紙)

#### お願い

- プログラムシート(1)、(2)と取扱説明書はいっしょに保存してください。
- 何かトラブルが起きたり、困ったことがあったらまず裏表紙を見てください。
- 停電補償の蓄電池は4年に一度、定期的に交換してください。

#### 工事店様へ

工事が終了しましたら、この説明書は必ずお客様へお渡しください。

## 本機の特徴

### ①プログラムタイマとしての働き

本機は、出力7回路のプログラムタイマで、プログラム容量は128プログラムです。本機はお客様の組むプログラムによって動作します。プログラムの書込みはキー入力方式です。休日変更や、スケジュール変更にも即座に対応できるように、曜日選択スイッチ、スケジュール選択スイッチが採用されています。さらに必要に応じて、出力接点の常時入、切の指定・プログラムのテストができます。

### ②自動修正回路(BGM-6100,6200との組合せで)

本機とCM演奏装置BGM-6100,6200とを組み合わせることにより、定時刻放送テープの狂いを自動的に検出し、修正する自動修正回路を組むことができます。(“自動修正回路の使いかた”の項26~27ページをご参照ください。)

### ③子時計の制御

別売の子時計制御アダプター(テクセル製CA-210)と組み合わせることにより、停電補償付き子時計制御システムを構成することができます。子時計としては、24V有極1分式子時計が使用できます。

### ④時刻修正

本機は外部から時刻の修正を受けられるようになっています。24V1分または30秒有極式親時計と接続することにより、親時計と同期運転が行なえます。さらにFMチューナーを接続することにより、NHK FM放送の時報に合わせて、時刻修正ができます。(“自動時刻修正のしかた”の項28ページをご参照ください。)

### ⑤停電補償

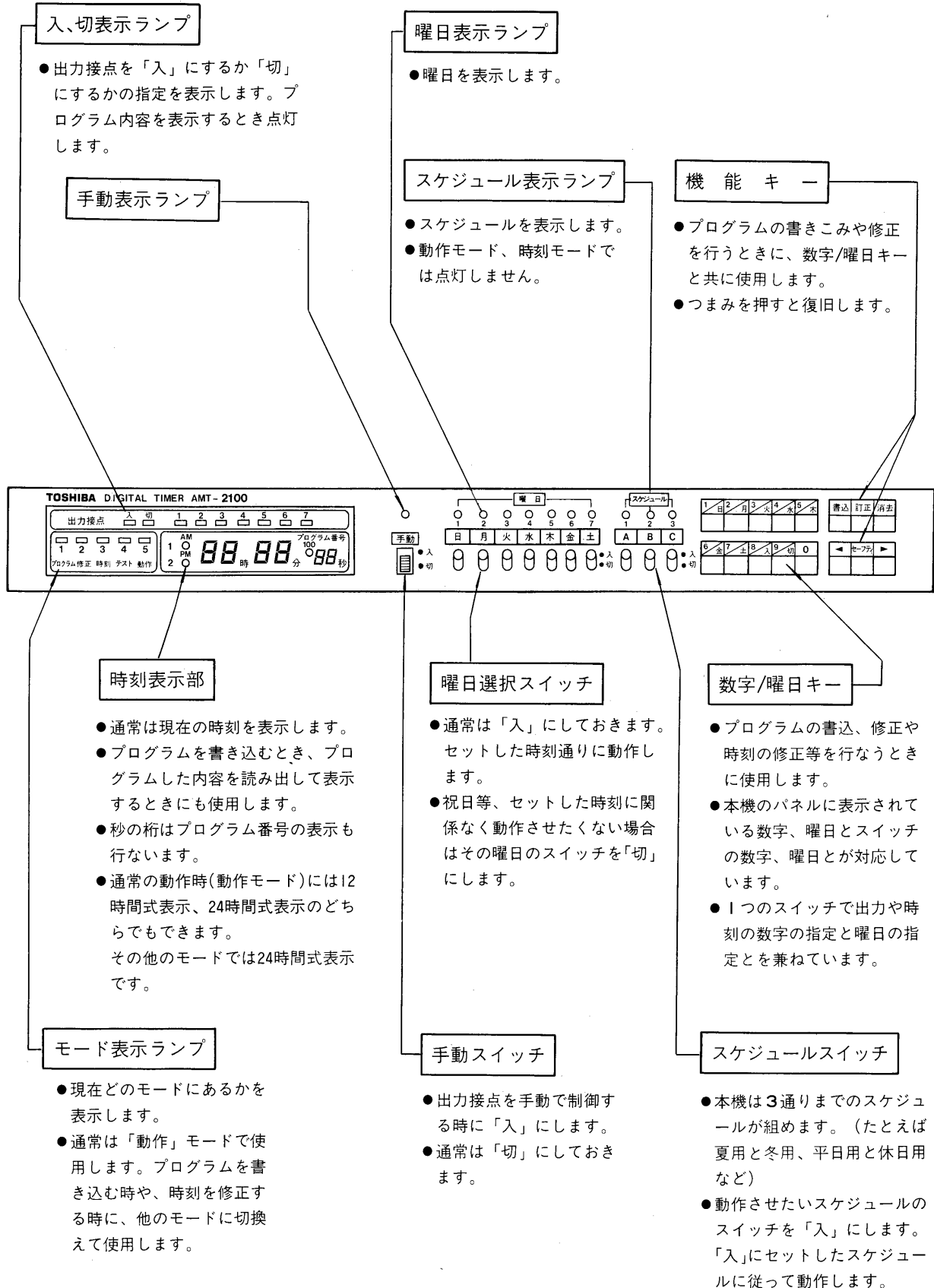
充電式ニッケルカドミウム電池を使用していますので、停電があっても120時間は内部の時刻は正確に動作し、プログラムの記憶は確保されます。

## 特にご注意を

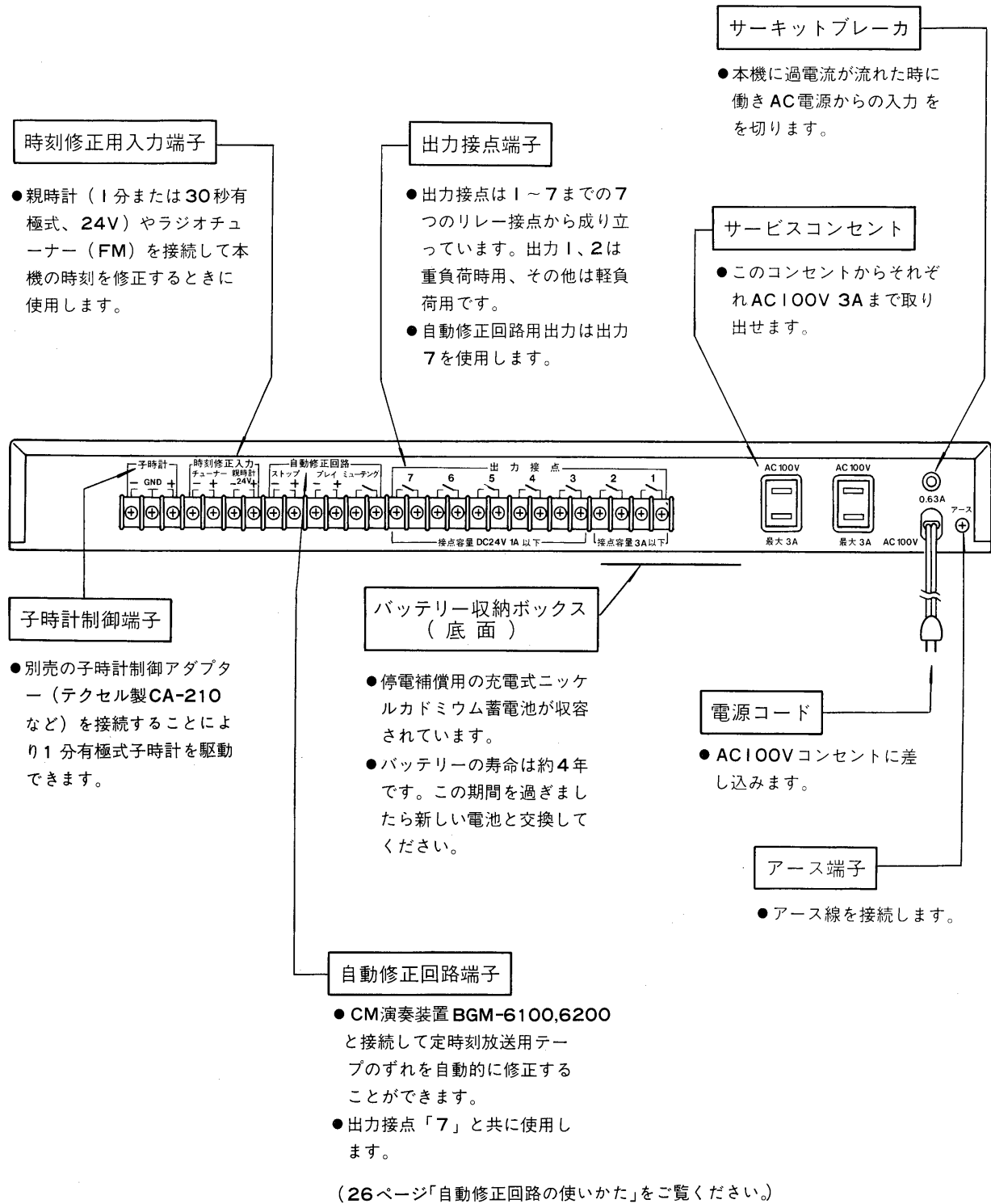
- 必ずアースをしてからご使用ください。  
事故防止のため、必ずアース端子から大地にアースをとってからご使用ください。
- 本体上面の通風口はふさがらないでください。  
通風口をふさぎますと機器内部の冷却が不完全となり故障の原因となります。
- ヒューズは必ず指定容量のものをご使用ください。  
ヒューズが切れたときは、その原因を取り除いてから指定容量のヒューズと交換してください。銅線などを使用しないでください。
- セット内部にはふれないでください。  
セットを改造されますと非常に危険で故障の原因ともなります。
- 風通しの良い、ホコリの少ない、温度、湿度の低い所に設置してください。直射日光の当る所、ストーブのような熱器具の近く、または調理台の近くで油煙や湯気の当るような所は避けてください。
- 本機の上や近くに水の入った容器などを置かないでください。  
本体内部に水が入るとショートや感電の原因となり大変危険です。  
また本体内部にピンや金属片が入るとショートや故障の原因となります。水やピンなどが入った場合はただちに電源プラグを抜きとり、お買いあげの販売店またはお近くの東芝お客様ご相談センターにご相談ください。

# TOSHIBA

## 各部のなまえと働き (前面)

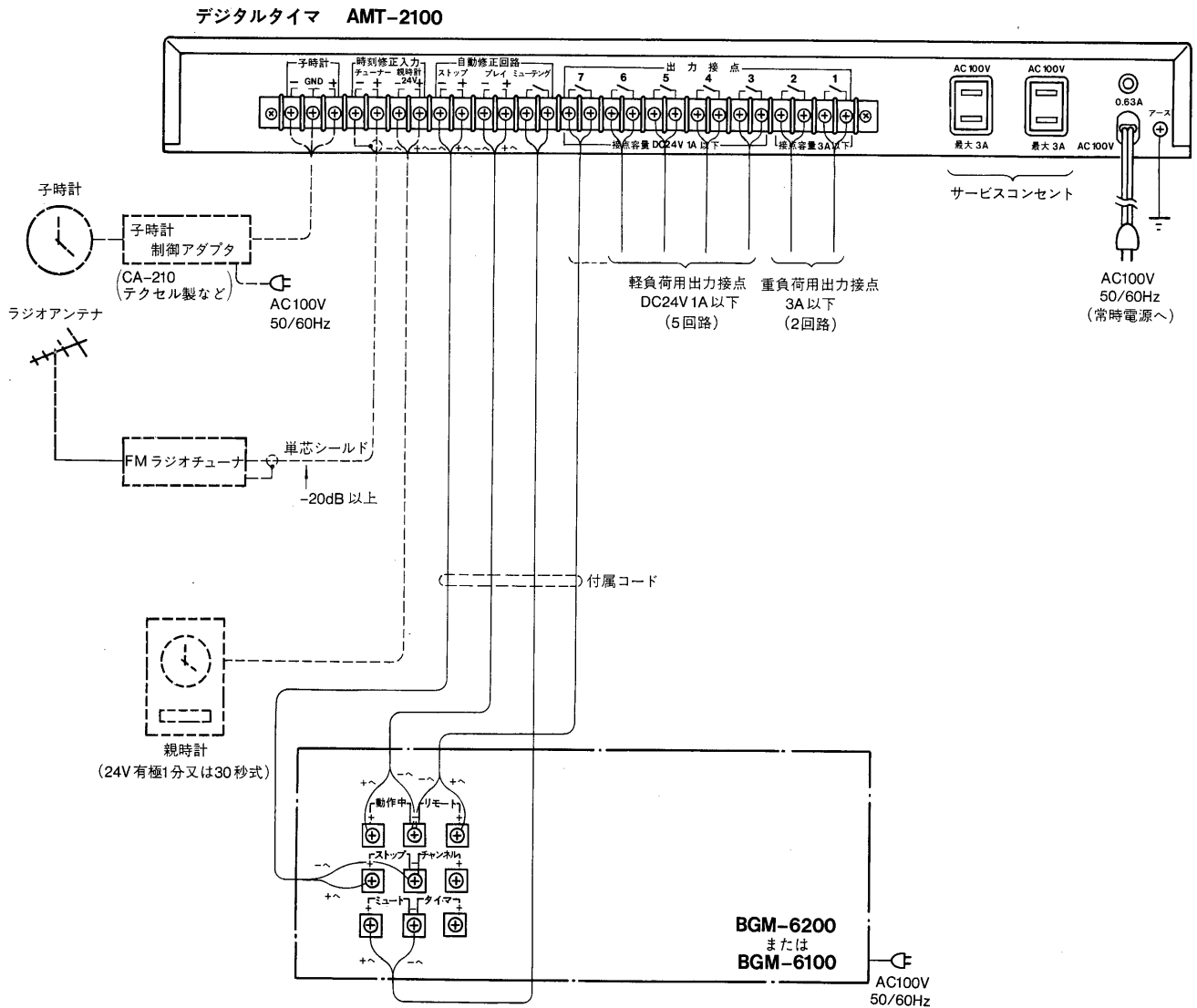


## 各部のなまえと働き（後面）



# TOSHIBA

## 接続のしかた



### ご注意

- ラック等へ収納する場合は最初に停電補償用のバッテリーを入れてください。
- アースは必ずとってください。
- 出力接点は負荷の接点容量に充分注意して選んでください。  
接点容量より大きい負荷を継ぐことはおやめください。故障の原因となります。
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてよくお読みください。

# TOSHIBA

## 使いかたの簡単な説明

AMT-2100はお客様が組むプログラムで動作します。

次の手順に従ってプログラムを作成してください。

プログラムを作成するまでの手順は次のとおりです。

〔1〕 お客様の組まれるシステムに応じて本デジタルタイマの出力接点を割りあてます。

本デジタルタイマは出力接点を7回路持っています。それぞれの出力接点で何を駆動するかを決め割りあてます。

〔2〕 各出力接点の動作時刻をプログラムシート(1)に書き込みます。

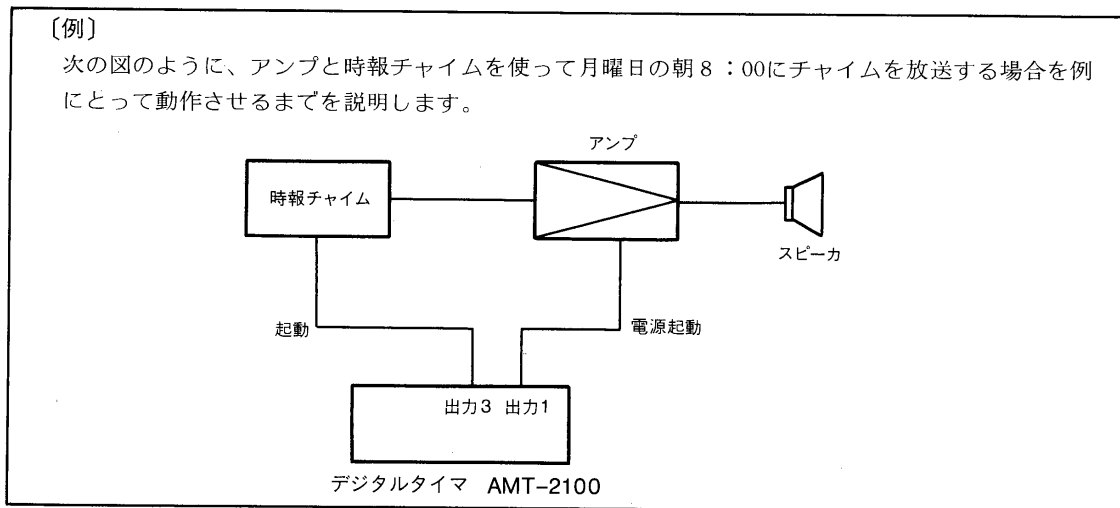
〔3〕 デジタルタイマに直接書き込めるプログラムシート(2)にプログラムシート(1)を書きなおします。

※プログラムシート(1)と(2)は各々2枚ずつ付属されていますが、必要に応じてコピーしてお使いください。

このようにして作成したプログラムをデジタルタイマに書き込み、時刻をセットし、動作モード(通常の運転状態)にセットすれば完了しますが、まず本機の使いかたを理解していただくために、プログラムシートを使わなくてもできる簡単な例を使ってプログラムの書き込みかた、時刻合わせのしかた、動作モードへのセットのしかたを説明しますのでこの例の **手順** に従って本機を動作させてみてください。

〔例〕

次の図のように、アンプと時報チャイムを使って月曜日の朝8:00にチャイムを放送する場合を例にとって動作させるまでを説明します。

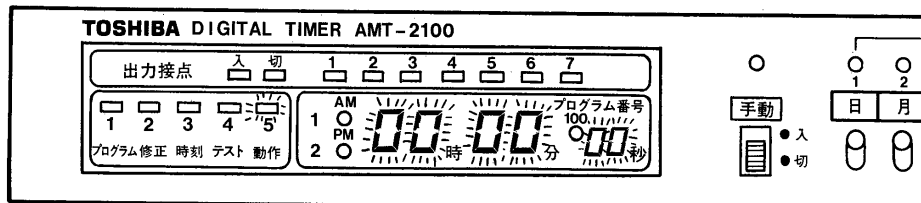


■まず最初に出力接点を割りあてます。

- 本機は出力接点を7回路持っています。
- 出力1,2は重負荷用(接点容量…3A以下)で出力3～7が軽負荷用(接点容量…DC24V、1A以下)です。
- 上図の例ではアンプの電源起動を出力1に時報チャイムの起動を出力3に割りあてています。

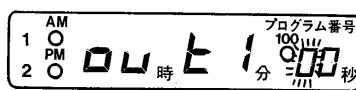
**手順1** デジタルタイマの電源プラグを AC100Vコンセントに差し込みます。

- 時刻表示部が00時00分で点滅し、ピッピッという音が鳴り、時刻の経過とともに秒の桁が01→02→03…と表示が変わります。



**手順2** **1/日** キーを押してください。

- 表示が "out 1 00" とかわり "00" の文字が点滅します。



点滅する

## 手順3 出力接点の動作時間を設定します。

- 本機は出力接点の動作時間(出力接点を一度動作したら、次にセットされた切れる時刻まで動作状態を保持する接点(保持接点)として使うか、あるいは一度動作したら一定時間後自動的に切れる(パルス接点)として使うか)をまず設定します。
  - 本機の出力接点7ヶすべてについて設定してください。(使用しない接点は保持接点として設定してください。)
- 使用しない接点があってもすべての接点について設定しないと次の操作に移れません。
- 保持接点として使用する場合は00と指定しパルス接点として使用する場合は、動作時間を……たとえば5秒動作させたい場合は05と……設定します。
  - 本例では出力1(アンプの電源起動)は保持接点で使用するしますので

**0** **0** **書込**

の順にキーを押します。

最初 **0** を押すと点滅は1秒の桁に移り、1秒の桁が設定待ち(キー入力待ち)となり、次にもう一度 **0** を押し、**書込** で入力されます。

("out 1"は出力1を示します)

- 表示は"out 2 00"と変わり、出力2の設定待ちの状態に移ります。出力2は使用していませんので

**0** **0** **書込**

の順にキーを押します。

- 表示は"out 3 00"と変わり出力3の設定待ちの状態に移ります。出力3(時報チャイムの起動)はパルス接点で使用し、動作時間としては5秒程度が適切ですので

**0** **5** **書込**

の順にキーを押します。

- このようにして以下出力7まで出力接点の設定をしていきます。
- 出力7の設定が終わると表示は"08時00分01"となり10時の桁がキー入力待ちの点滅をし、次の時間割(プログラム)の書き込み待ちの状態に移ります。



点滅

## 手順4 時間割を書き込みます。

出力接点の設定が終わったら次に時間割(プログラム)を書き込みます。プログラムを1つでも書き込みませんと次の操作に移れません。

- 本例では月曜日の朝8:00にチャイムを鳴らしますので
  - ①7時59分にアンプの電源を起動してアンプをONさせ
  - ②8時00分に時報チャイムを起動してチャイムを鳴らせ
  - ③時報チャイムが鳴り終わったらアンプの電源を切る(たとえば8時02分に切るとします)
 の3つのプログラムが必要です。

- 秒の桁はプログラムの番号を示し1番目のプログラムがキー入力待ちの状態にあることを示しますので

①のプログラムを

**0** **7** **5** **9** — **2/月** — **▶** — **1** — **▶** — **8/入** **1**

の順にキー入力し、まちがいないことを確かめたあと **書込** キーを押して書き込みます。

- プログラムを書き込むとプログラム番号は"02"と自動的にかわり10時の桁がキー入力待ちの点滅をします。

②のプログラム

**0** **8** **0** **0** — **2/月** — **▶** — **1** — **▶** — **8/入** **3** — **書込**

の順にキー入力し書き込みます。

- 同様に③のプログラムを

**0** **8** **0** **2** — **2/月** — **▶** — **1** — **▶** — **9/切** **1** **書込**

の順にキー入力します。

- これで①~③のプログラムの書き込みが完了します。

## 手順5 時刻合わせをします。

- プログラムの書き込みが終わったら次に時刻合わせを行います。
- **手順5** の終わった状態では10時の桁が点滅しています。この状態で **◀** キーを押します。モード表示ランプのプログラム部が点灯から点滅にかわります。
- 時刻あわせは時刻モードで行いますので **3/火** キーを押します。プログラムモードランプが消え時刻モードランプが点滅し始め、時刻モードに移ったことを示します。
- 次に **▶** キーを押すと時刻ランプは点灯にかわり10時の桁がキー入力待ちの点滅をします。
- 現在の時刻がたとえば土曜日の午後2時59分でしたら現在の時刻より1分進めた午後3時00分を  
**1** **5** **0** **0** — **7/±**  
の順にキー入力し、時報に合わせて **書込** キーを押します。
- 秒の桁は00秒から動きはじめ、時計がスタートします。キー入力待ちの点滅表示は時刻モード表示の所に移ります。

## 手順6 動作モードに移します。

- **5/木** キーを押します。モード表示ランプは動作モードのところに移り、書き込んだプログラムに従って本機が自動的に働く動作モードに移ります。
- 通常はこの動作モードで使用します。
- この動作モード表示が点滅している状態では、いたずらなどのキー入力により他のモードへ移したりプログラムを変更したりすることが可能です。こうしたことを防ぐために通常はキー入力を禁止して使用します。 ➡ 25ページ「キー入力禁止のしかた」をご覧ください。



# TOSHIBA

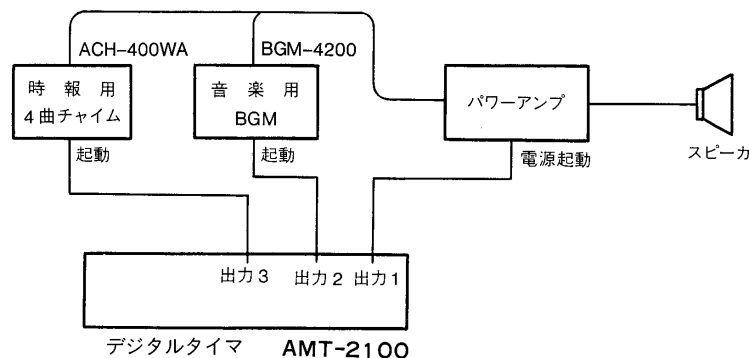
## プログラムの組みかた

以上簡単な例で使いかたを説明しましたが、実際の使用にあたっては、プログラム数が増えるので添付のプログラムシート(1)(2)を使ってプログラムを組んでからデジタルタイマに書き込む方が便利です。

本項ではこのプログラムシート(1)(2)を使ってプログラムを組む方法を説明します。

[例]

下図の例は、始業、終業を知らせる時報チャイム放送、音楽の放送などの定時刻放送をデジタルタイマで制御して行なうシステムの例です。



通常(平日)の時間割

曜日	日	月	火	水	木	金	土
アンプ電源起動	休日	朝8:00から午後7:00まで動作				朝8:00から午後4:00まで動作	
BGM		朝9:00から午後5:00まで放送				朝9:00から午後2:00まで放送	
時報チャイム		朝8:30、午後6:00の2回放送				朝8:30、午後3:00の2回放送	

特定日(時間延長日)の時間割

曜日	月	火	水	木	金	土	
アンプの電源起動	休日	朝8:00から午後8:00まで動作				朝8:00から午後5:00まで動作	
BGM		朝9:00から午後6:00まで動作				朝9:00から午後3:00まで放送	
時報チャイム		朝8:30、午後7:00の2回放送				朝8:30と午後4:00の2回放送	

この例を使って以後プログラムの組みかたを説明します。

**手順1** 出力接点を割りあてます。

“使いかたの簡単な説明”の項で説明しましたように本機の出力接点を割りあて、プログラムシート(1)(2)の“出力接点”の欄に記入します。本例では

アンプの電源起動……出力接点1…保持接点

BGMの起動……出力接点2…保持接点

時報チャイム起動……出力接点3…パルス接点

とします。

**手順2** プログラムシート(1)へ前ページの時間割に従って各出力接点の動作時刻を次のような要領で書き入れます。

プログラムシート(1)はデジタルタイマを使用するシステムの動作をわかりやすく書くための用紙です。

AMT-2100の出力接点を割りあてた各機器の動作時刻を前ページの時間割に従って図の上に書き込みます。「入」は○印「切」は×印で記入します。

平日と特定日(たとえば土曜日)で、プログラム内容が変わる場合は図1、図2の例のように、2枚のプログラムシートに分割します。

プログラムシート(1)のスケジュールA欄には通常(平日)の動作時刻を記入しておきます。  
時間延長日のように通常とは異なるスケジュールが必要な場合は、スケジュールBまたはCに動作時刻を記入します。特に、時間延長スケジュールを、スケジュールBに記入しています。

保持接点として使用する出力接点は保持を○で囲み00と書き入れます。  
パルス接点として使用する出力接点はパルスを○で囲み接点の動作時間を秒単位で書き入れます(01から59秒までの指定ができます)。本例では出力接点1、2が保持接点で出力接点3がパルス接点です。

書き入れた動作時刻の横に時刻の早いものから順に表の上から下へ動作時刻の横に( )で囲んで数字を01から順に書き入れます。プログラムシート(1)が2枚以上あれば全てに書き入れます。

プログラムシート(1)の「プログラム内容」の欄にプログラムの内容を記入します。

以上でプログラムシート(1)への記入は完了します。  
(このプログラムシート(1)は後日のプログラム変更のとき必要となりますので大切に保管しておいてください。)

図1 プログラムシート(1)

プログラム内容		月~金曜日(スケジュールA=平日 B=時間延長)												プログラム作成日														
出力番号	出力接点	使用機器	スケジューラ	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
1	00	アプ電源	A																									
			B																									
			C																									
2	00	BGM-4200	A																									
			B																									
			C																									
3	0.5	ACH-400 WA 起動	A																									
			B																									
			C																									
4	00		A																									
			B																									
			C																									
5	00		A																									
			B																									
			C																									
6	00		A																									
			B																									
			C																									
7	00		A																									
			B																									
			C																									

図2 プログラムシート(1)

プログラム内容		土曜日(スケジュールA=平日 B=時間延長)												プログラム作成日														
出力番号	出力接点	使用機器	スケジューラ	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
1	00	アプ電源	A																									
			B																									
			C																									
2	00	BGM-4200	A																									
			B																									
			C																									
3	0.5	ACH-400 WA 起動	A																									
			B																									
			C																									
4	00		A																									
			B																									
			C																									
5	00		A																									
			B																									
			C																									
6	00		A																									
			B																									
			C																									
7	00		A																									
			B																									
			C																									

# TOSHIBA

### 手順3 プログラムシート(1)をプログラムシート(2)に書きうつします。

プログラムシート(2)は本デジタルタイマに直接書き込めるプログラムを作るための用紙です。

プログラムシート(1)から次の手順で書きなおしてください。

- プログラムシート(1)の各動作時刻の横に( )で囲って記入した番号をプログラムシート(2)のプログラム番号欄に順番に書き入れこの番号順にプログラムシート(2)にプログラムシート(1)の内容を書きうつします。
- 書きうつしかたは動作する時刻、曜日、設定したスケジュール、接点の入か切、動作する出力接点の各欄の該当する欄にV印を記入します。
- たとえばプログラムシート(1)の番号(01)の内容は次のように書きうつされます。

### プログラムシート (1)

プログラム内容		月~全曜日 (スケジュールA=平日, B=時間延長)		プログラム作成日	年	月	日																				
出力番号	出力接点	使用機器	スケジュール	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
1	保持 00 パルス	ランプ電源	A									8:00 (01)														19:00 (22)	
			B									8:00 (02)														20:00 (24)	
			C																								

### プログラムシート (2)

プログラム内容		プログラム作成日		年	月	日												
プログラム番号	時	分	曜日	スケジュール	接点	出力番号												
00~23	00~59	日	月	火	水	金	土	A	B	C	切	2	3	4	5	6	7	出力接点
01	08	00	V	V	V	V	V	V			V	V						OUT 1
																		OUT 2
																		OUT 3
																		OUT 4
																		OUT 5

- このようにしてプログラムシート(1)に番号を書き入れたすべての動作をプログラムシート(2)に書きうつします。

動作時刻の同じものは時、分の欄に // 印を入れます。

本例のプログラムシート(1)の内容(図1、図2)は右のようにプログラムシート(2)に書きうつします。

- 最後のプログラム番号が128以下であれば、このままで後述の操作のしかたに従ってデジタルタイマに書き込むことができますが、短縮したい場合、または128を超える場合は13ページの“短縮のしかた”に従って短縮したのち書き込んでください。



## ■プログラムシート(2)の短縮のしかた

AMT-2100は曜日、スケジュール、出力番号の欄に複数の指定ができますので、次の手順でプログラムを短縮することができます。

- ①12ページの例の1番のプログラムと2番のプログラムはスケジュールの欄だけが異なります。  
1番のプログラムのスケジュール欄のAとBにV印をつけると2番のプログラムは省略できます。  
(5番と6番のプログラムも同様です)
  - ②上記のようにスケジュール欄に注目して短縮したあと、次は曜日の欄に注目します。さらにその後出力番号の欄について短縮します。1番から4番のプログラムは最終的には1ケのプログラムになります。
  - ③14ページの図は全てのプログラムを短縮した例です。  
最後に備考の欄に必要な注意事項を書いておきます。
- ※本機は、必ずしも時刻順にプログラムを組む必要はありませんが、将来プログラムの変更等がしやすいように時刻順にプログラムを組むことをおすすめします。

## ■以上の手順でプログラムシート(2)の作成が完了します。

### お願い

プログラムシート(1)(2)と、取扱説明書は必ず保存してください。

# TOSHIBA

## プログラムシート (2)

プログラム内容		プログラム例														プログラム作成日		年	月	日						
																プログラム作成者										
プログラム 番号	時 00~23	分 00~59	曜日							▶	スケジュール			▶	接点		出力番号							出力接点		
			日	月	火	水	木	金	土		A	B	C		入	切	1	2	3	4	5	6	7			
01	08	00	✓	✓	✓	✓	✓	✓	▶	✓	✓	▶	✓	✓	✓									OUT 1	00	
02	08	30	✓	✓	✓	✓	✓	✓	▶	✓	✓	▶	✓				✓							OUT 2	00	
03	09	00	✓	✓	✓	✓	✓	✓	▶	✓	✓	▶	✓				✓							OUT 3	05	
04	14	00						✓	▶	✓		▶	✓				✓	✓						OUT 4	00	
05	15	00						✓	▶	✓		▶	✓				✓	✓						OUT 5	00	
06	✕							✓	▶	✓		▶	✓				✓		✓					OUT 6	00	
07	16	00						✓	▶	✓		▶	✓				✓	✓						OUT 7	00	
08	✕							✓	▶	✓		▶	✓				✓		✓					備考		
09	17	00	✓	✓	✓	✓	✓	✓	▶	✓		▶	✓				✓	✓						1.平日はスケジュールA選択 2.時間延長日はスケジュールB選択 3.定休日は曜日選択スイッチを「切」 にしておく		
10	✕		日	月	火	水	木	金	土	▶	A	✓	C	▶	入	切	✓	✓	2	3	4	5	6			7
11	18	00	✓	✓	✓	✓	✓	✓	▶	✓		▶	✓				✓	✓								
12	✕		✓	✓	✓	✓	✓	✓	▶	✓		▶	✓				✓		✓							
13	19	00	✓	✓	✓	✓	✓	✓	▶	✓		▶	✓				✓	✓								
14	✕		✓	✓	✓	✓	✓	✓	▶	✓		▶	✓				✓		✓							
15	20	00	✓	✓	✓	✓	✓	✓	▶	✓		▶	✓				✓	✓								
20			日	月	火	水	木	金	土	▶	A	B	C	▶	入	切	1	2	3	4	5	6	7			
30			日	月	火	水	木	金	土	▶	A	B	C	▶	入	切	1	2	3	4	5	6	7			
40			日	月	火	水	木	金	土	▶	A	B	C	▶	入	切	1	2	3	4	5	6	7			

## プログラムの書き込みかたと操作のしかた

### ■プログラムを書き込む前に

#### モードについて

本機の動作は5つのモードに分かれており、それぞれのモードで仕事を分担しています。

#### ①プログラムモード

プログラムの書き込み及び追加を行ないます。プログラムシート(2)からプログラム番号順に書き込みます。出力接点連続時間の指定もここで書き込みます。

#### ②修正モード

プログラムモードで書き込まれたプログラムを時刻の早い順に読み出すことができます。また、将来プログラムの消去や変更も、このモードで行ないます。

#### ③時刻モード

本機に内蔵されている時計の時刻合わせを行ないます。

#### ④テストモード

プログラムで制御される出力接点の動作をテストすることができます。出力接点、曜日、スケジュールを個々に指定してテストできます。

#### ⑤動作モード

本機はコントロールタイマとして、プログラムに、従って動作します。通常はこのモードで使用します。

また、そのほかに次のような機能も必要に応じて利用できます。

- a. 手動動作 (⇒ 24ページ)
- b. キー入力の禁止及び禁止の解除 (⇒ 禁止23ページ、解除25ページ)
- c. 次のプログラム動作時刻、確認 (⇒ 23ページ)
- d. 曜日選択及びスケジュール選択スイッチの当日指定 (⇒ 23ページ)
- e. 12時間表示の選択 (⇒ 23ページ)

#### 前面パネルの数字について

前面パネルに表示された数字は、次のように数字キーと対応しています。これはプログラム書き込みやモード切替え時にどのキーを押すか、わかりやすくするためです。

プログラム	……1	スケジュールA	……1	日	曜	日	……1
修正	……2	スケジュールB	……2	月	曜	日	……2
時刻	……3	スケジュールC	……3	火	曜	日	……3
テスト	……4			水	曜	日	……4
動作	……5			木	曜	日	……5
				金	曜	日	……6
				土	曜	日	……7

初めてプログラムされて立上げるには次の手順で行ないます。次ページから順に行なってください。概略は以下のとおりです。

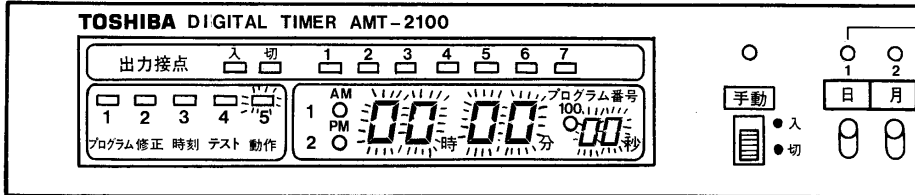


# TOSHIBA

## ① 出力接点の設定のしかた (初めて)

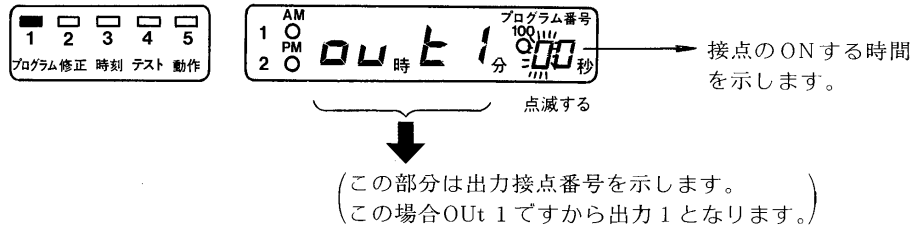
**手順1** デジタルタイマーの電源プラグを AC100Vコンセントに差し込みます。

- 時刻表示部が00時00分で点滅し、ピッピッピッという音が鳴り、時刻の経過とともに秒の桁が01→02→03…と表示がかわります。



**手順2** 1/日 キーを押してください。

- 表示が“out 1 00”とかわり“00”の文字が点滅します。またプログラム1 ■ が点灯します。



**手順3** 出力接点の動作時間を設定します。(out 1)から

● 出力接点には

- ① 一度動作したら次にセットされた切れる時刻まで動作状態を保持する **保持接点**
  - ② 一度動作したら一定時刻(1~59秒)後に自動的に切れる **パルス接点**
- の2種類があります。

- 本機の出力接点7ヶすべについて設定してください。(使用しない接点は保持接点00として設定してください。) 接点は1から順にしか設定できません。  
使用しない接点があってもすべての接点について設定しないと次の操作に移れません。
- 保持接点として使用する場合は00と指定しパルス接点として使用する場合は、動作時間を……たとえば5秒動作させたい場合は05と……設定します。
- 13ページの書込み例、出力3が5秒のパルス接点で、他が保持接点の場合は次のようにします。

0 0 書込 とキーを押します。  
out 2に表示が変わりますので  
0 0 書込 とキーを押します。  
out 3に表示が変わりますので  
0 5/木 書込 とキーを押します。  
out 4に表示が変わり  
0 0 書込 とキーを押します。  
あとは順に 0 0 書込  
でout 5~7を設定します。

接点仕様	入力する数値
保持接点	00
パルス接点	01~59 (1~59秒)

(設定例)

out 1	00	} 保持接点
out 2	00	
out 3	05	} パルス接点
out 4	00	
out 5	00	} 保持接点
out 6	00	
out 7	00	

※ 書込み途中でまちがえたら

- 書込 を押す前でしたら ◀ ▶ キーを押して間違えた桁に合わせてから再入力してください。
- 書込 を押した後ですとひととおり出力接点の設定をして、次の時間割のプログラムを1つ以上入れた後に修正モードにしないと修正できません。
- 誤って書込んだ場合は、すべて入力してから 修正モード で直してください。 ➡ 20ページ



## ② 時間割の入力のしかた

時間割プログラムでは次の順番で入力し書込みます。  
(プログラムシート2を見ながら入力してください。)

- ① 動作させる時刻の入力
- ② 動作させる曜日の入力
- ③ スケジュールの入力
- ④ 出力接点の入、切設定
- ⑤ 動作させる接点の入力

①～⑤をくりかえし、すべての時間割を入力します。

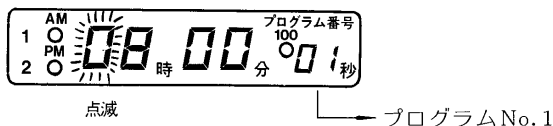
ここでは時間割プログラムの1つを入力する方法を下の例により説明します。

ー例ー  
プログラムNo.1

- |           |       |
|-----------|-------|
| ① 時刻      | 08:00 |
| ② 曜日      | 月～土   |
| ③ スケジュール  | A、B   |
| ④ 出力接点    | 入     |
| ⑤ 動作させる接点 | 1     |

### ● 書込みの方法

- 出力7の設定が終わると表示は“08時00分01”となり10時の桁がキー入力待ちの点滅をし、次の時間割(プログラム)の書き込み待ちの状態に移ります。



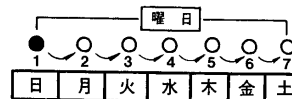
**手順1** 時刻を入力します。

例のプログラムの時刻 08:00 を入力します。

**0** **8/入** **0** **0** の順にキーを押します。  
08:00

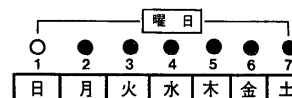
**手順2** 曜日を入力します。

08:00と表示され曜日ののところを見ると  
LEDが順番に点灯していきます。  
(プログラムNo.2からはその前のプログラムで設定したところが点滅します。)



このとき月～金を入力します。

**2/月** **3/火** **4/水** **5/木** **6/金** **7/土** の順にキーを押します。

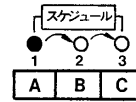


右図のようにLEDが2～7まで点滅します。

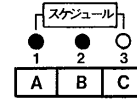
# TOSHIBA

**手順3** スケジュールを入力します。

▶ キーを押すとスケジュールのLEDが順に点滅しますので  
 1/月 2/火 キーを押します。

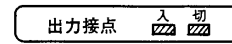


● 設定しますとA, Bのところ点が点滅します。



**手順4** 出力接点の入、切を入力します。

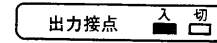
● ▶ キーを押しますと出力接点の設定となります。  
 まず出力接点を入、切どちらにするか決めます。



点滅している

● 8/入 または 9/切 のいずれかのキーを押して設定します。

● 例に従って 8/入 キーを押します。  
 8のLEDが点灯します。

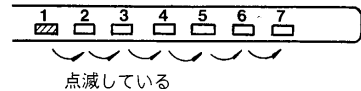


入 点灯

**手順5** 動作させる接点を入力します。

● 次にどの接点を動作させるか決めます。  
 LEDが1～7を順に点滅していますのでこのとき動作させたい接点のキーを押します。

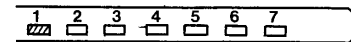
● 例に従って  
 1/日 キーを押します。  
 1のLEDが点灯します。



点滅している

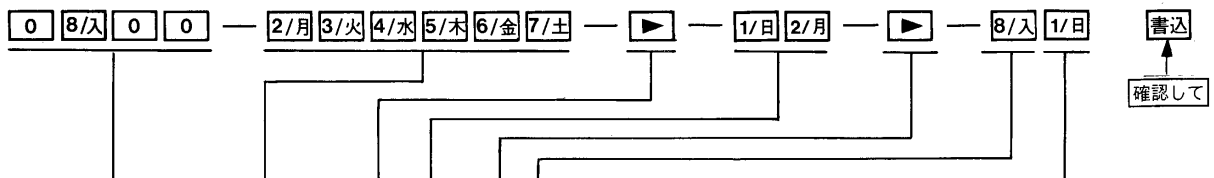
ここまで入力し間違いがないか各表示を見て確認します。  
 間違っていたら次ページを見て直してください。

**手順6** 間違いがなければ書込キーを押して書込みます。



今までの内容をプログラムシート(2)と照らし合わせると

プログラム番号01の場合



プログラムシート (2)

プログラム内容		プログラム例										プログラム作成日	年	月	日				
プログラム番号	時	分	曜	日	スケジュール	接点	出力番号							出力接点					
00-23	00-59	日	月	火	水	木	金	土	スケジュール	接点	1	2	3	4	5	6	7	00 : 保持接点	01-59 : パルス接点
01	08	00	日	月	火	水	木	金	土	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	OUT 1	00
02	08	30	日	月	火	水	木	金	土	▶	▶							OUT 2	00
03			日	月	火	水	木	金	土	▶	▶							OUT 3	

# TOSHIBA

もしプログラムデータに、まちがいがあっても、書込キーを押す前であれば、簡単に訂正することができます。その手順は次のようになります。

- ◀ キーを押して、訂正したいデータの所までキー入力待ちの点滅を移動させます。
- 正しいデータをキー入力します。曜日、スケジュール、出力番号の欄は訂正キーを押してから、正しいデータをキー入力します。
- 書込 キーを押します。

- 書込 キーを押してしまっからの訂正については20ページの修正モードの欄をご覧ください。プログラムを書き込むとプログラム番号は02と自動的にかわります。以後この手順で書込み作業をしていきますが

## 2番目のプログラム

08 時 30 分——月、火、水、木、金、土——A・B——入・3

は1番目のプログラムと〰〰〰の所だけが違います。

このような場合は ▶ キーを使って

▶ ▶ 3/火 ▶ — ▶ — ▶ — ▶ 3/火 書込

とキー入力します。

▶ キーはキー入力待ちの点滅を右に移すときに、◀ キーは左に移すときに使用します。

〰〰〰印の所だけが前のデータと違いますので違うデータの所にキー入力待ちの点滅を移動し、新しいデータをキー入力します。

もちろん

0 8/入 3/火 0 — 2/月 3/火 4/水 5/木 6/金 7/土 — ▶ — 1/日 2/月 — ▶ — 8/入 3/火 書込

とキー入力してもかまいません。

またこの2番目のプログラムが

08 時 40 分——月・火・水・木・金・土——A・B——入・1

のようなプログラムであった場合〰〰〰部以後は1番目のプログラムと同じですので

▶ ▶ 4/水 — 書込

とキー入力できます。このように「書込」キーは、どこでも押すことができます。

**手順1～5をくり返して時間割プログラムをすべて入力してください。**

**ご注意** 本機のプログラム容量は最大128になっています。

99番目のプログラムを書き込みますとプログラム番号100部のランプが点灯し数字は 00 を示します。



100番目以後はプログラム番号の下2桁が数字で表示されます。

- 128番目のプログラムを書き込むと自動的にプログラム書き込みは終了し、以後はキーを押すと“FULL”の文字が表示され、それ以上新しいプログラムは追加できません。

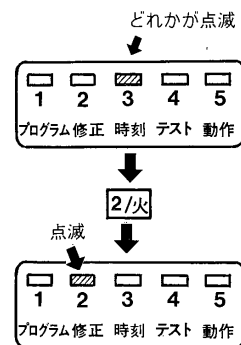
**終わったら次は修正モードでプログラムのチェックを行ないます。(20ページへ)**

## ③ 修正モードによるプログラムのチェック、修正、消去

修正モードでは書込んだプログラムのチェックおよび修正、消去ができます。

修正モードにするには動作モードの表示LEDのどれかが点滅しているときに **2/月** キーを押して修正モードにします。

修正モードでは **2/月** キーが重要なキーとなります。チェックしたり修正する場合にプログラムを順送りするキーです。



**ご注意** 修正モードではプログラムの追加はできません。  
プログラムモードで行なってください。

### プログラムのチェックのしかた

**2/月** キーを押して修正モードにします。モード表示ランプの修正モード表示が点滅し、"out 1 ……"と表示されます。出力1の動作時間をチェックすることができます。

再び **2/月** キーを押します。"out 2 ……"と表示され、以後 **2/月** キーを押すたびに、"out 3 ……"→"out 4 ……"と移り、"out 7 ……"が終わると書き込んだプログラムが時刻の早いプログラムから順に読み出されます。

**2/月** キーを押し続けるとプログラムの早読み出しができます。

### プログラムの修正のしかた(時間割)

まちがったプログラムがあったら次のようにして修正します。

(他のモードから移る場合は **2/月** キーを押して、修正モードにします。)

**2/月** キーを押して、修正したいプログラムを表示させます。

**▶** キーを押して、修正したいデータの上に点滅表示を移動させます。

正しいデータをキー入力してください。

**書込** キーを押してください。プログラムの修正が行なわれ、キー入力待ちの点滅は、修正モードランプの所に移ります。

●チェック、修正が終了したら次に時刻モードで時刻の設定をします。(21ページへ)

### プログラム消去のしかた

修正モードでプログラムを次のような手順で消去することができます。

**2/月** キーを押して、消去したいプログラムを表示させます。確認してから

**消去** キーを押してください。

### プログラムの全消去

本機にはリセットスイッチはありませんので、プログラムをすべて消去したいときは次のようにしてください。

修正モードで **2/月** キーを用いてプログラム番号1にする。

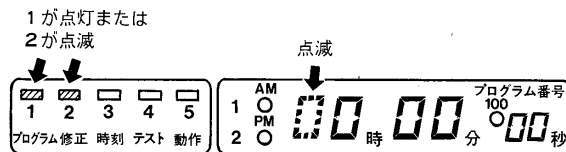
**消去** キーをプログラムがなくなるまでくりかえし押す。

プログラムがすべて消去されると強制的にプログラムモードに入りますので16ページ以降の説明に従って新しいプログラムを入力してください。

## ④ 時刻設定のしかた

●ここではタイマーの時計の時刻設定をします。

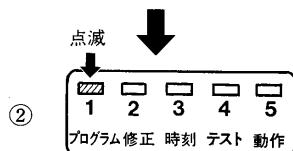
時間割プログラムの入力が終わった時点では右図のように **プログラム** LED点灯しているか、チェック修正等を行なった場合には修正モードなので **修正** LEDが点滅しており、10時の桁がキー入力待ちで点滅状態になります。



①

### 手順1

この状態にて **◀** キーを押してください。右図②のように動作モードの **プログラム** LEDが点滅して「モード」が変更できるようになります。

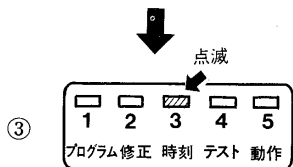


②

### 手順2

次に **3/火** キーを押して時刻モードにします。③

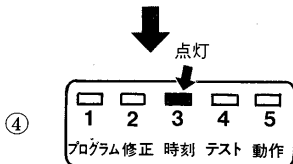
**時刻** が点滅しますので、このとき **▶** キーを押しますと点灯が変わり時刻設定待ちとなります。④



③

### 手順3

**手順1**の終わった状態では右図⑤のように10時の桁が点滅していますのでキーで時刻を入力します。



④

●例 (月) 12:05の場合

**1/日** **2/月** **0** **5/木** と押します。

●次に曜日のLEDが点滅しますので **2/月** キーを押して月曜日を点滅させます。

⑤



### 手順4

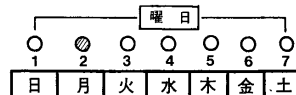
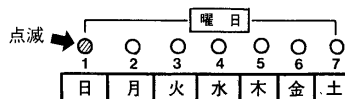
次に **書込** キーを時報(177)や他の時計に合わせて押して設定が終了します。

時計がスタートし秒の桁がカウントを始め **時刻** のモードLEDが点滅します。

秒の桁を00にしたいときは **訂正** キーを押してください。このとき秒の桁が30~59のときは分の桁が1進みます。

初めての 경우에는次にテストモードで動作チェックをします。

⑥



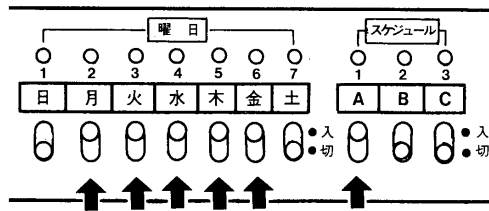
## ⑤ 動作チェック

ここでは、書込まれたプログラムが正しく動作するかチェックします。

(機器を接続してテストを行うときは接続に間違いがないかどうかもう一度お確かめください。)

- 正しく動作するかどうかのテストはテストモードで行います。  
日曜日から始まり、土曜日まで1日毎にテストされます。
- 曜日選択スイッチと、スケジュール選択スイッチを実際に使用する場合と同じ条件に設定してください。

たとえば月曜日～金曜日にスケジュールAで組んだプログラムをテストする場合は下図のように、月曜日から金曜日までの曜日選択スイッチとスケジュールAのスケジュール選択スイッチを“入”にし他の曜日選択スイッチ、スケジュール選択スイッチは“切”にします。



### ① 出力接点1～出力接点7のすべての出力接点についてテストする場合

- 4/水** キーを押し、テストモードにします。もしキー入力が禁止されていれば解除してから**4/水** キーを押してください。
- テストモード表示がキー入力待ち表示の点滅をはじめ、1週間の最初のプログラムが表示されています。
- 再び**4/水** キーを押します。表示されていたプログラムに従って出力リレーが動作し、出力表示が点灯します。
- 4/水** キーを押すごとにテストが行なわれます。1日分終了すると次の曜日に変わります。

### ② Err 7が出たら

曜日選択スイッチと、スケジュール選択スイッチの設定が適切でなく、1週間に1度もプログラムが働かない場合は“Err 7”が表示され、強制的に動作モードに移ります。

### ② 出力リレーを動作させずにテストするには？

上記のテストのbの手順以後、**4/水** キーのかわりに**0** キーを押すことにより出力リレーを動作させずにプログラムのテストを行なうことも可能です。

### ③ 出力接点の動作状態は出力表示にあらわれます。

### ④ 出力接点を指定してテストをする場合

- 4/水** キーを押しテストモードにします。
- ▶** キーを押します。指定したい出力接点番号をキー入力します。  
**訂正** キーは1度指定した内容を消すときに使用してください。
- ◀** キーを押し、上記-1及び-2と同じ手順でテストしてください。

## ⑥ キー入力禁止処理と運用について

●テストが終わり問題なく動作することを確認されましたら次に動作モードにします。

**【ご注意】** **【手動】**スイッチは切にしておいてください。

(1)動作モードにするには、モード表示のLEDが点滅(図1)していることを確認してから**【5/本】**キーを押してください。

動作モードとなりモード表示の**【動作】**LEDが点滅し現在時刻を表示して動作が始まります。

(2)次に通常は誤操作、いたずら防止のためにキー入力を禁止してお使いください。

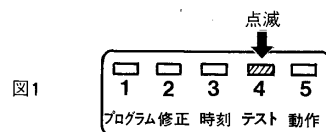


図1

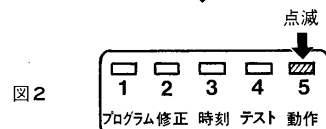


図2

点灯

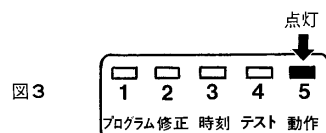


図3

### キー入力禁止のしかた

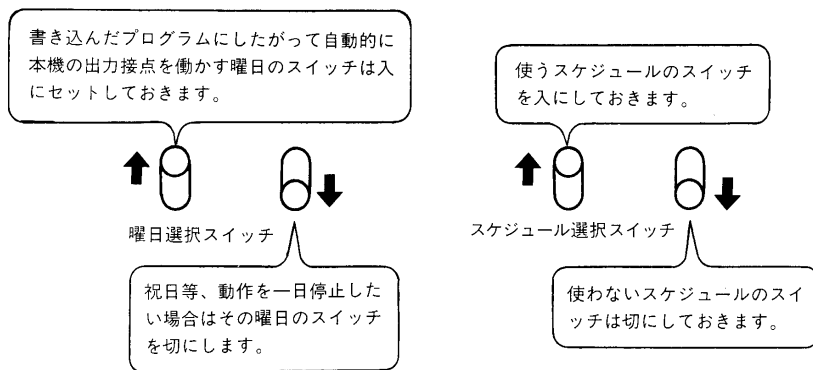
図2のように**【動作】**LEDの点滅している状態にて**【訂正】**キーを押しながら**【セーフティ】**キーを押します。

図3のように**【動作】**LEDが点滅から点灯に変わりキー入力待ちの点滅はすべての表示の上からなくなりキー入力禁止の状態となります。(解除のしかたは25ページ)

### 12時間表示への切替えかた

- キー入力を禁止してください。
- 【訂正】**キーを押すたびに12時間表示と24時間表示が交互に切替わります。お好みの表示にしてください。

### 曜日選択スイッチとスケジュール選択スイッチの使いかた



### 曜日選択スイッチ、スケジュール選択スイッチを変更した場合

- 1日の途中でスイッチを変更しますと、翌日の夜中の0時から自動的にかわります。たとえばスケジュール選択スイッチAを切り、Bを入れれますと、変更した日の翌日の夜中の0時から自動的にスケジュールBで働きます。
- 変更後すぐに変更した内容で動作させたい場合は**【消去】**キーをしばらく押し続けてください。(ピッと鳴り2～3秒後にもう一度ピッと鳴ります。)その時点から変更した曜日、スケジュールスイッチの内容で自動的に働きます。

### 次のプログラム動作時刻の確認

動作モードで**【0】**キーを押します。

現在時刻以降でもっとも近いプログラムの内容が表示されます。

## ⑦ 手動動作のしかた

- a. キー入力禁止を解除してください。(25ページ)
- b. **手動** スライドスイッチを上げ、「入」にします。キー入力待ちの点滅は出力番号1の所に移動します。
- c. 手動で「入」または「切」にしたい出力番号のところに **▶** キーを押してキー入力待ちの点滅を移動し、( **▶** キーを押すたびにキー入力待ちの点滅が出力番号1→出力番号2→…と移動します。)  
手動で「入」にしたい場合は **8/入** キーを、手動で「切」にしたい場合は **9/切** キーを押します。  
**8/入** キーを押すと表示は点灯に、**9/切** キーを押すと早い点滅にかわり、キー入力待ちの点滅が次の出力番号のところに移ります。
- d. **▶** キーを押してキー入力待ちの点滅を手動表示 ( **手動** スライドスイッチの上の表示) のところに移したのち  
**書込** キーを押します。手動表示が点滅から点灯にかわり、「入」または「切」と指定した出力チャンネルが動作します。  
(キー入力待ちの点滅が出力番号表示のところにある状態で **書込** キーを押してもキー入力されません。)
- e. 手動動作が終わったら **手動** スライドスイッチを下げ、「切」にしてください。またキー入力を禁止してください。(23ページ)  
書き込んだプログラムに従って自動的に働きます。  
(書き込んだプログラムより手動動作が優先します。)

## ⑧ 停電補償について

- 本機は付属のニッケルカドミウム蓄電池により停電があっても120時間は内部の時刻は正確に動作しプログラムの記憶は保障されます。
- 蓄電池は出荷時接続されていません。

- バッテリー収納ボックスは本体底面にあります。
- AねじをはずしBねじをゆるめてバッテリーカバーをはずしてください。
- バッテリーのコネクタをバッテリー収納ボックスのプラグに差し込み、バッテリーを絶縁紙で包み、もとのようにカバーをAねじで止め蓋をしてください。

●バッテリーの寿命は約4年です。定期的に交換してください。

- 交換用バッテリーは東芝お客様ご相談センターにご依頼ください。

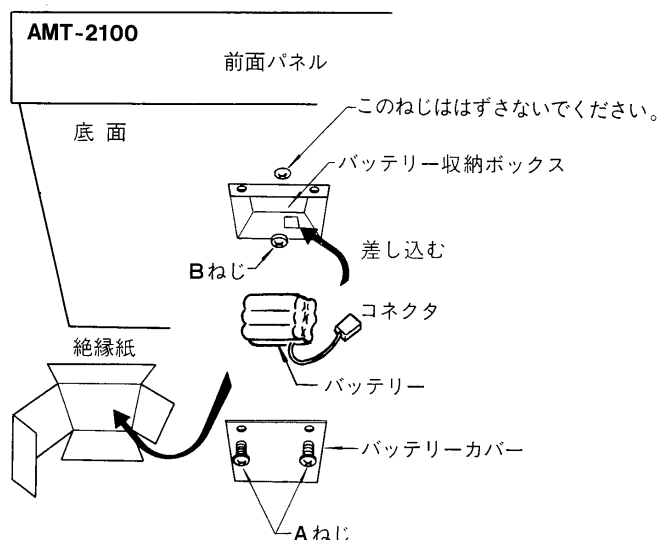
### ご注意

- バッテリー交換はAC100V電源が入っている状態で行ってください。そうしないと書き込んだプログラムがバッテリー交換時消去されてしまいます。

- 本機は、停電があったあと電源が入りますと表示が点滅しピッピッピとブザーが鳴り続け停電のあったことを知らせます。

**1** キーを押しますと動作モードに復帰します。

- 120時間以上の停電が続きますと内蔵のマイクロコンピュータは自動的に内蔵のプログラムを消去し内蔵時計の時刻を00時00分にリセットし、初期の状態に設定します。  
この場合は出力接点の設定からやり直し、保管のプログラムシートによりプログラムを入れ直してください。
- 本機の充電方式はトリクル充電方式です。最初の設置時および120時間以上の停電のあと蓄電池を充電するのに **50時間以上** 必要です。





## ⑨ エラー表示について

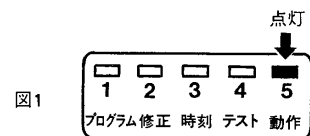
本機の操作を間違えますとエラー表示が出、ピーピピッと鳴り誤操作のあったことを知らせます。エラー表示とその内容は次のようになっていますのでもう一度チェックしてください。

- Er r 1** キー入力は禁止されています。必要に応じ禁止解除の操作をしてください。
- Er r 2** キーが2重押しされました。確実に押しなおしてください。
- Er r 3** 手順が違っています。説明書を確認してください。(キーを押しまちがえると出ます)
- Er r 4** プログラムにデーターが不足しています。データーを入力してください。
- Er r 5** プログラムに重複した部分があります。プログラムシートをチェックしてください。
- Er r 6** プログラムが1つも書き込まれていません。書込みを行なってください。
- Er r 7** テストするプログラムが見つかりません。出力接点指定及び曜日選択スケジュール選択スイッチを確認してください。 ➡ 22ページ動作チェックの項目をご覧ください。

## ⑩ キー入力禁止を解除するには

- 通常、動作しているときはキー入力を禁止していますので、時刻の修正、プログラムの修正追加を行なうときには、まずキー入力禁止の解除をしてください。

キー入力禁止状態では、図1のように**動作**LEDが点灯しています。



キー入力解除をするには、

- 1) **書込** キーを押しながら**セーフティ**キーを押します。
- 2) 次に5秒以内に**7/±** **0** **5/木**とキー入力します。  
正しく押されれば**動作**LEDが点滅に変わりキー入力が解除されたことを示します。



- 3) この状態で次に、行ないたい操作のモードに切りかえてください。

プログラムの追加	<b>1/日</b>	を押す	17ページの手順1から
"    の修正消去	<b>2/月</b>	"	20ページ
時刻の修正	<b>3/火</b>	"	21ページ
動作チェック、テスト	<b>4/水</b>	"	22ページ

詳しくはそれぞれの項目をご覧ください。

**ご注意** “Err1”が出た場合は、**書込** キーと **セーフティ** キーの押しかたが悪いからです。もう一度やりなおしてください。

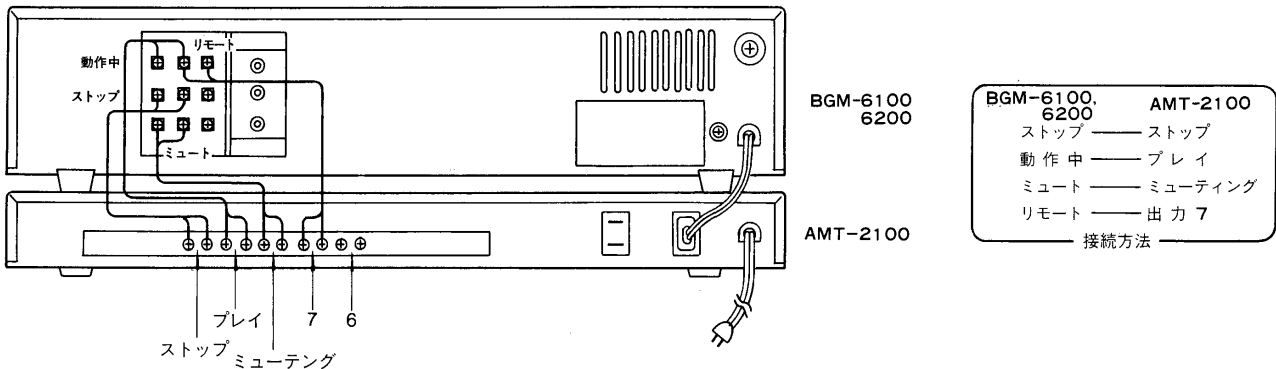
## 自動修正回路の使いかた

本機はBM演奏装置BGM-6100, 6200と組合わせて、定時刻放送の自動修正回路を組むことができます。

### ●自動修正機能の原理

デジタルタイマAMT-2100は、現在のスタートパルスの数を記憶しています。また、BGM-6100, 6200はオートストップするたびに、ストップ信号を出力します。AMT-2100はこのストップ信号の数をも記憶し、スタートパルスの数とストップの数がいっしょになっているか監視しています。両方の数一致していないとき、AMT-2100はミュート信号を出力してBGM-6100, 6200を外部に音を出さない状態で空送りし修正します。また、夜中の12時30秒前にテープの頭出しを行ないます。停電がありBGM-6100, 6200の放送が途中でとまっても、電源が入ったあと自動的にテープの頭出しができます。

### ●デジタルタイマとBGM-6100, 6200との接続



- BGM-6100, 6200のリモート端子へは本機の出力接点7を使用してください。(他の出力接点では自動修正はできません。)

本機の出力接点7はBGM-6100, 6200の自動修正用としての使いかたもできますし、他の出力3～出力6の接点と同様にBGM-6100, 6200以外の機器を接続して使用することもできます。

- BGM-6100, 6200を使って自動修正を行うときのプログラムの組みかた。

右図の例のように出力接点7をパルス接点として設定し、動作時間を4秒に設定してください。



放送したい時刻をスケジュールAまたはスケジュールBに設定します。



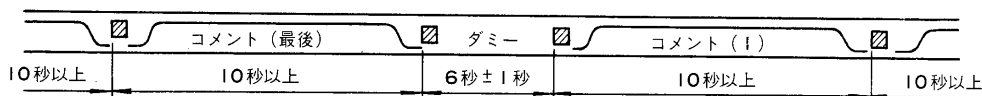
以後は他の出力接点と同様に本機に動作時刻を書き込みます。

プログラムシート(1)

プログラム内容		土曜日(スケジュールA=平日, B=時間延長)														プログラム作成日											
出力番号	出力接点	使用機器	スケジュール	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
1	保持 00 パルス	アンプ電源	A									8:00									16:00						
			B										8:00										17:00				
			C																								
2	保持 00 パルス	BGM-4200	A									9:00									14:00						
			B										9:00										15:00				
			C																								
3	保持 0.5 パルス	ACH-400WA	A									8:30									15:00						
			B										8:30										16:00				
			C																								
4	保持 00 パルス		A																								
			B																								
			C																								
5	保持 00 パルス		A																								
			B																								
			C																								
6	保持 00 パルス		A																								
			B																								
			C																								
7	保持 0.4 パルス	BGM-6100 "-6200	A									9:00									14:00						
			B										9:00										15:00				
			C																								

## ②テープ制作について

自動修正用テープには、起点を検出するため、6秒±1秒でストップするダミーコメント(無音時間)が必要です。このダミーコメントは、最後のコメントの直後に入れてください。また、ダミーコメント以外のコメントは10秒以上とってください。自動修正用テープに無信号ストップ方式を使うことはさけてください。センシング及びマーカ方式が確実です。なおテープの制作はBGM-6100, 6200取扱説明書末尾に記載のテープ供給会社にご依頼ください。



## ③自動修正用の定時刻放送テープを最初に使用するとき。

自動修正用の定時刻放送テープを最初に使用するときや、交換するときには1度本機とテープの同期をとってください。

これは、次のようにして下さい。

- 動作モードであることを確かめます。必要であれば **5** キーを押し動作モードに切替えます。
- 定時刻放送用テープを新しいテープに差しかえます。
- テープが回っていたら、止まるまで待ちます。
- テープが停止している状態で、スタートボタンを押します。
- 以上で自動的にテープとの同期がとれます。

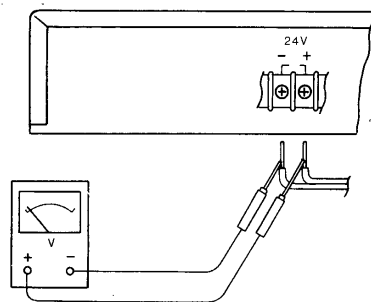
## ご注意

- ダミーコメントの時間が6±1秒よりずれていると起点の検出ができずテープがまわりっ放しになります。ダミーコメントの時間を再度チェックしてください。
- 10秒以下のコメントがあると起点の検出を誤り定められた時間のコメントと違うメッセージを放送する場合があります。

## 自動時刻修正のしかた

本機の時刻修正入力に、24V有極1分又は、30秒式親時計を接続して、親時計との同期運転ができます。

親時計からの2本の線にテスターをあて、毎分の0秒のときに、メーターの針が⊕側に振れる方を、本機の時刻修正入力、親時計端子の⊕側に接続してください。



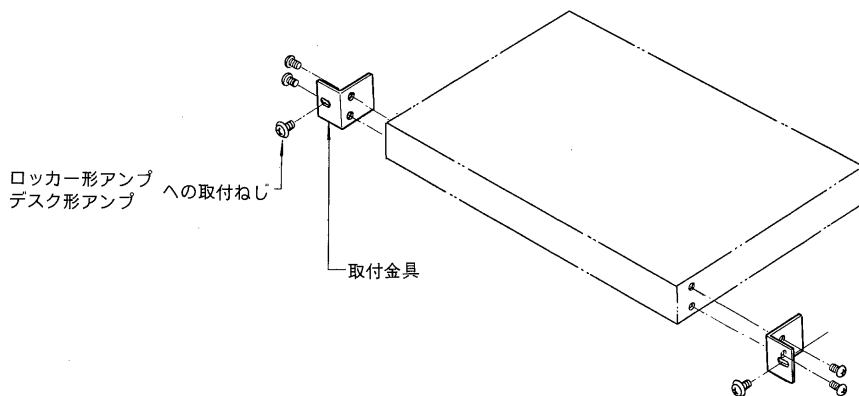
本機の時刻修正入力、チューナー端子に、FMチューナー出力を接続することにより、NHK FM放送の時報に合わせて、時刻修正ができます。接続はシールド線を使用してください。

- FMラジオチューナーの出力は、-20dB以上のものをお使いください。
- NHK FMの7時、12時、19時の時報880Hzで修正します。
- NHK FMから同調がずれないようにご注意ください。
- FMラジオの電源は、常時AC100Vの出ているコンセントに接続してください。

- ご注意**
- 本機は7時、12時、19時のそれぞれの時刻の5秒前からラジオチューナーの出力を取り込み、時報に合わせて時刻修正をした後5秒すぎると入力の取り込みを停止します。
  - 最初の時刻の設定が5秒以上ずれていると自動修正が働きませんのでご注意ください。

## ロッカー形アンプ、デスク形アンプへの組み込みかた

本機は付属の取付金具を使用してEIAサイズのロッカー形アンプやデスク形アンプの袖部へ組み込むことができます。次の図のようにして取り付けてください。



## 修理サービス

ご使用中に異常が生じたときは次の項目をもう一度お確かめください。

①電源が切れたあと、時計が狂ってしまう。

- ★チェックポイント
- 電池は正しく接続されていますか？
  - 電池の使用年数が4年以上になっていませんか？
- } 24ページ

②リレーが動作しない。

- ★チェックポイント
- **動作** モードになっていますか？
  - 曜日選択スイッチは正しい位置になっていますか？ → 23ページ

③停電表示がひんぱんに出る。

- ★チェックポイント
- AC電源は安定していますか？
  - 大電力機器による瞬間停電が原因ではありませんか？

④定時刻放送テープが時々狂う。

- ★チェックポイント
- テープがいたんでいませんか？
  - 特にアルミ箔がボロボロになっていませんか？
  - 演奏機のセンシングポールの汚れはありませんか？

これらの項目をチェックしてもなおらないときはお使いになるのをやめ、各機器の電源を切って買いあげの販売店、またはお近くの東芝お客様ご相談センターにご相談ください。なお、ご相談されるときは形名(AMT-2100)およびお買いあげ時期をお忘れなくお知らせください。

# TOSHIBA

## 仕様

電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	約15W
水晶発振周波数	4,194,304Hz
時間精度	月差±5秒(25℃)
停電補償時間	120時間
内蔵バッテリー	充電式ニッケルカドミウム電池(7.2V 500mAH)
プログラム数	128プログラム
プログラム内容	時、分、曜日、スケジュール、出力番号、入または切
出力接点形式	保持接点またはパルス接点(任意に設定可)
コントロール時間	保持接点…1分単位、パルス接点…1秒～59秒
入力形式	キーボード入力
出力	出力数…7回路(無電圧メーク接点出力) 接点容量…出力1、2：100mA～3A 出力3～7：DC24V 1mA～1A
表示部	モード表示…プログラムモード、修正モード、時刻モード、テストモード、動作モード 出力接点表示…入、切および1～7出力接点表示 時刻表示…時、分、秒(プログラム番号表示を兼用) およびエラーメッセージ表示、パルス巾表示も兼用 曜日表示…日、月、火、水、木、金、土 スケジュール表示…A、B、C
機能	曜日選択 スケジュール選択 外部同期運転…30秒または1分式有極式親時計またはFMチューナ (NHK FM放送時報 880Hz 7時、12時、19時、3回/1日) 手動動作 定時刻放送テープ自動修正機能(BGM-6100, BGM-6200接続時) 12時間/24時間表示切換可 プログラムテスト エラー表示 子時計制御機能(子時計制御アダプター…別売テクセル製CA-210)
使用温度範囲	0℃～40℃
重量	約4.5kg
寸法	420(W)×270(D)×44(H)(ゴム足含まず)
外觀	フロントパネル：オフブラックメタリック塗装 ケース：ダークグレイ(ビニールラミネート鋼板)
付属品	バッテリー ×1 取扱説明書 ×1 ヒューズ ×2(0.5A、1A各1ケ) 接続コード ×1(10芯…BGM-6100, BGM-6200接続用) プログラムシート ×4(プログラムシート(1)(2)各2枚) ラック取付金具とねじ ×1式 東芝お客様ご相談センター一覧表×1

## 次のような場合には

トラブル、困っている内容		対策方法、取扱説明書のページ
① ピッ、ピッ、ピッと鳴り続けている。	➡	<b>[1/日]</b> キーを押してください。
② スケジュールを変更してすぐ運用したい。 (夏時間/冬時間の切替えなどあらかじめ プログラムされているスケジュールを 変更するとき)	➡	23ページの曜日選択スイッチとスケジュール選択スイッチ を変更した場合のb.をご覧ください。 ポイントは変更後 <b>[消去]</b> キーを5秒押し続けることです。
③ 12時間表示/24時間表示を変更したい。 (AM/PM)	➡	23ページの12時間表示への切替えかたをご覧ください。 ポイントは <b>[訂正]</b> キーを押すことです。
④ 次に動作する時間割プログラムを確認し たい。	➡	動作モードで <b>[0]</b> キーを押します。 23ページ
⑤ プログラムを変更、追加、消去したい。	➡	1) キー入力禁止を解除してから (25ページ) または⑨ 2) 追加 (プログラムの組みかた 9ページから) 変更、消去 (修正モードによる……20ページ)
⑥ ピッ、ピッ、ピッと鳴り続き表示が <b>OUT 1</b> となっている。	➡	停電し、停電補償の電池の寿命がきていたため(4年) プログラムが消えてしまっています。 プログラムを入れなおし、電池を交換してください。 (プログラム→16ページ)(電池→24ページ)
⑦ 手動で操作したい。		24ページの手動動作のしかたをご覧ください。
⑧ 時刻を修正したい。		1) キー入力禁止を解除してから(25ページ) または⑨ 2) 時刻設定のしかた(21ページ) <b>[手順2]</b> ~ <b>[手順4]</b> を ご覧になって修正 3) キー入力禁止処理(23ページ)
⑨ キーを押しても受け付けない。 Err 1の表示が出てしまう。	➡	キー入力禁止解除をします。 <b>[書込]</b> キーを押しながら <b>[セーフティ]</b> キーを押します。 5秒以内に <b>[7/±]</b> <b>[0]</b> <b>[5/木]</b> と押します。 (詳しくは25ページをご覧ください。)
⑩ キー入力を禁止したい。	➡	<b>[訂正]</b> を押しながら <b>[セーフティ]</b> を押します。 何かキーを押してErr 1が出ることで確認できます。